

なすび

第42号

目次

1p 年度末を迎えて
2p~4p 部活動、行事報告

今後の予定
編集後記

栃木県那須学園
〒329-2132
矢板市沢800
TEL 0287-43-0573
FAX 0287-43-6886
メール nasu-gakuen
@pref.tochigi.lg.jp
発行日 令和5年3月10日

く年度末を迎えてく

那須学園の厳しい冬も終わりに近づき、一日一日と暖かくなるのを感じます。今年度も中学三年生をはじめとする多くの子どもたちが巣立ちの時期を迎えようとしています。職員一同、期待半分、不安半分で巣立っていく子ども達を精一杯のエネルギーで見送りたいと思います。



◎一年を振り返って

園長 大島 登

寒さ厳しかった冬から春暖の候へと日差しの強さや暖かさが感じられるようになってきましたが、同時に令和四年度も終わりに近づき、中学三年生を中心に学園を離れ新たな生活を迎える季節になりました。

年度当初は一桁だった児童数は、現在（二月下旬）約二〇名になり、子どもたちの賑やかな会話も耳にできる状況になっていきます。

長らく新型コロナウイルスの状況に影響を受けざるを得ない状況が続いてきましたが、今年度は徐々に正常化に向けた動きが実感できるようになりました。昨年末に初めて数名の児童がコロナ陽性となりましたが、辛い重症化やクラスターとなる事態は避けられたものの、感染予防対策への認識を改めて感じさせられたところです。そんな中でも子ども達は学園で規則正しい生活を送りながら自分の課題と向き合い仲間とともに成長を続けてきました。寮や学校での指導や仲間との関わりの中で他者との接し方をはじめ様々なことを身につけ、多岐にわたる活動や体験を通して精神的な逞しさも培われてきたと感じ

ています。

学園の子ども達は、時期によって異なる部活動に参加しており、得意な種目にはいきいきと楽しく、不得意な種目であっても粘り強く取り組むことで、新たな興味・関心が芽生えるなど、自分自身の特性に気づききっかけになっていきます。そして、これらの活動の成果を示す場として各種大会が開催されています。

今年度は、関東少年野球大会（六月）、関東少年水泳大会（八月）、関東女子バレーボール大会（一〇月）、関東少年文化祭（十一月）、関東少年卓球大会（十二月）という予定されていたすべての大会等に参加することができ、県外へ出て大勢の児童の中で競技・発表する機会が得られました。特にバレーボールは準優勝、野球と卓球はそれぞれ三位入賞を果たし、子どもたちの自信に繋がったと思います。

また、分校とも協力しながら、遠足、海浜学校、修学旅行、スキー教室等が実施でき、加えて今年度は「いちご一会とちぎ国体」の開催に伴う競技観戦（軟式野球）もあり、子ども達にとっては貴重な経験を積むことが出来たと思います。

地域や関係機関の方々とは、運動会、学園祭、クリスマス会などを通じて交流の機会を設けています。今年度は学園祭とクリスマス会は三年ぶりに招待者をお呼びして開催でき、クリスマス会には保護者の方々も御招待して、学園の状況や子ども達の成長の様子を見ていただくことができました。

子ども達にとっては、ここでの生活や行事の一つひとつが貴重な体験であり、それらに真剣に取り組む姿勢を身につけることは大変重要な意味があり、寮や学校での生活を通じて仲間や職員との関係を積み重ねる中で、信頼関係や自信を持てるようになる点も価値あることだと感じます。子ども達がここで過ごした時間が、この先の人生を夢や希望を持つて力強く生きていくための一助になることを願ってやみません。



☆部活動報告☆

☆バレー部

昨年の4月から始まり、初めはとにかく基礎練習の繰り返しでしたが、徐々に形になり、大会に向けてチームとしてのまとまりも出ていきました。

一〇月に開催された関東女子バレーボール大会では、予選、決勝トーナメント初戦と順調に勝ち抜き、念願の決勝に進むことが出来ました。惜しくも決勝では負けてしまいました。が、最後までチーム全員で戦い抜き、準優勝と大健闘の結果となりました。そして、メンバーは大きく変わり、今月から新たに活動がスタートしました。目標はもちろん昨年届かなかった優勝。昨年の悔しさを晴らすため全員一丸となって、頂点を目指します。部活動を通して、技術だけではなく、人として大きく成長できることを願っています。



☆吹奏楽部

那須学園の吹部は子どもたち全員と分校の教員、寮職員も参加し、まさに学園一丸となって取り組んでいる活動のひとつです。今年度は例年より少し早めの五月中旬から活動を開始しました。限られた時間のなかでも子どもたちはみるみるうちに上達しましたが、曲を演奏するのは簡単なことではありません。正確に音を出すだけでなく、周囲の音を聴き、リズムを合わせる、本当に地道で大変な作業です。今年度は沢分校の音楽講師にも協力いただき、どうにか二曲を完成させ一月の関東少年文化祭で発表することができました。

発表後は「楽しかった」「緊張した」などと思いきいの感想を述べる子どもたちの表情は達成感に満ちあふれていました。子どもたちは初めての経験に戸惑いながらも本当にたくさんの努力を重ねました。たとえ上手にできなくても、一生懸命頑張る姿は聴いている人の心に必ず届く、まさにそれを体現していたように思います。この貴重な経験を、これからの人生に生かしてほしいと願います。



☆卓球部

今年度も九月から卓球部の活動が始まりました。今年度は入所児童の数も少ないことから陸上部との選択



制をやめ、男子児童は全員で卓球部の活動を行うこととなりました。球技が得意ではない児童、そもそも運動自体が得意ではない児童などさまざまな状況のなか練習が始まりました。はじめは、コントロールが上手にできずラリーを続けるのも難しかった児童も、こつこつと練習を重ね、着実に上達していきました。

そして迎えた関東少年卓球大会。新型コロナウイルスの影響で久しぶりの大会参加となり、児童も職員も気合は十分でした。予選リーグは一勝一敗の二位通過で決勝トーナメントへ。初戦で惜しくも敗れ、団体戦で三位入賞という結果でした。緊張で思うように力が出せない場面もあり、悔いも残る大会となりましたが、一生懸命練習して大会に参加したこと自体が貴重な経験となったことでしょう。この経験をこれからの生活に生かしてほしいと思います。

☆行事報告☆

☆修学旅行（中学生）

一〇月二六〜二八日

奈良・京都方面への修学旅行へ行ってきました。三日間とも快晴で、新幹線からは富士山も望むことができました。一日目の奈良では、唐招提寺、薬師寺、東大寺を訪れました。奈良時代の仏像や東大寺の大仏に生徒たちは感動していました。二日目は、京都市内での班別活動を行いました。事前に自分たちで見学先を決め、見どころや乗り降りするバス停を調べ、活動しました。三日目は、二条城と北野天満宮を見学してきました。北野天満宮では、高校受験に向けて、合格をお参りしました。関西の文化や文化財に触れることができ、教室では得ることができない学びをすることができました。



☆修学旅行（小学生）

二月八・九日

冬晴れの天候のもと、元気に出発しました。まずは鎌倉、多くの人出で賑わいを見せていました。鶴岡八

幡宮を巡り、通称「江ノ電」に揺られて高徳院の大仏から江ノ島新水族館、夜は由比ヶ浜のホテルに宿泊と、大満足の一日目でした。

翌日は鎌倉を後にして、東京、上野動物園へ。そして、児童が一番楽しみにしていた「鉄道博物館」(さいたま市)。特に、新幹線には興味津々で、かぶり付くような見学ぶりでした。日頃から、那須学園の近くを往来する新幹線を見るたびに、何かと話題にしていた児童でしたので、夢にまで見た「てつぱく」の見学に満面の笑みでした。事前活動から当日まで、大変充実した修学旅行でした。



☆里芋・さつまいも収穫

一月四日・一日

両日とも天候に恵まれ絶好の収穫日和となりました。里芋は、子どもたちの背丈よりも大きく茎を伸ばし立派に成長し十分な収穫量となりました。さつまいもについては、子どもたちがマルチ張りした後、農園担当職員が畝と畝の間にもマルチを張るなど工夫していただき、大きなさつまいもをたくさん掘ることができました。さつまいもには肥料が重要で、大きいと味も大味になってしま

うそうです。それでも子供たちにとっては大きなさつまいもを掘ることが何よりの誇りで楽しく作業することができました。

今年も実りある一年になりました。手間ひまかけて食物ができていることを理解し感謝につなげられる貴重な経験となりました。



☆収穫感謝祭

十一月十八日

今年度は新型コロナウイルス感染症防止に配慮しながら、児童、職員が一堂に会して開催し、毎年恒例の学園の田んぼで育てた餅米を使って餅つきを行いました。学園では春に素足で田んぼに入って苗を植え、秋には育った稲を刈り、はぎ掛けを行うなど、児童、職員が総出でお米を作っています。餅つきは初めて経験する児童ばかりで悪戦苦闘の連続で、杵で臼を叩いて木くずが入るのは、愛敬。最終的にはつやつやとした美味しいお餅がつき上がって皆大喜び

でした。収穫感謝祭を通して、日頃から美味しい食事を作ってくれている食堂棟の調理員さんや学園の田畑を管理してくれている農場担当の方への感謝の気持ち、農作物を作ることの大変さ、そして食べる喜びやありがたみを感じることができた一日となりました。



☆クリスマス会

二月一日

今回は、三年ぶりに保護者や関係機関の職員を招いての開催となりました。子どもたちは、限られた時間の中で意見を出し合いながら一生懸命準備しました。劇やコントなど個性あふれる内容に会場は大盛り上がりでした。

吹奏楽の発表では、約七か月間の活動の集大成としてふさわしい堂々とした演奏を披露できました。保護者や支援者の前で頑張って練習した成果を直接見ていただける機会はそ

う多くありません。子どもと保護者が笑顔で楽しいひとときを共に過ごしている姿を見ると、こうして開催できたことは大きな意味があったのではないかと感じます。



☆席書大会

一月一日

今年の流行は「万里一空」。最優秀賞、優秀賞、特別賞(文字の部)の受賞者が選んだ熟語がすべて「万里一空」でした。「掲げた一つの目標を見据え、怠けずに努力を続けること」という意味のこの四字、本来は、どこまで行こうが世界は一つの空のもとにあるという考え方を示しているそうです。自由闊達だけど、どこか臆病で器用な、学園の子どもたちらしい選択だと思えます。

発表の部では、静かで緊張感漂う、新年の行事としてふさわしい会となりました。



☆新年昼食会

一月一〇日

席書大会後の昼食では、新年の挨拶もかねて児童・職員・分校教員が一堂に会し、新年昼食会が行われました。三年ぶりにこのような形で開催となりました。ふだんは各寮で食べている食事ですが、全員でテーブルを囲み、お寿司や豚汁などをいただきながら、新年をお祝いしました。子どもたちは、園内では滅多に食べられないお寿司を、美味しくいただきました。生ものが苦手な児童は、お稲荷さんやハンバーグ寿司等、加熱されたお寿司セットを選ぶなど大満足の会食会となり、子どもも職員も新年の目標も新たに、良い一年のスタートとなりました。

☆スキー教室

一月一二日、二〇日

当日は朝から快晴、無風とコンディションに恵まれ、初めて体験した子どもたちも満面の笑顔で元氣よく参

加しました。上達も早く、二回目の午後からは、参加した児童全員が山頂リフトからの滑走を果たしました。児童生徒、職員も皆、思い思いのシユプールを描いてスキーを楽しみました。遠くに連なる雪山の峰を仰ぎ、仲間と共に体験した貴重な体験を忘れずに、今後の活動の励みにしてほしいものです。



☆立志式

二月三日

「立志」についての意味や歴史を学ぶことから始め、将来の自分について作文を書き、準備をしました。

当日は分校や学園の職員に見守られるなか生徒一人一人が将来の夢や目標について、緊張しながらも立派に発表することができました。また、校長先生からは大人になる準備として「言葉の持つことの意味」について話をいただきました。これからは旗揚げ当番や朝礼の司会

など二年生を中心に引っ張っていくこととなります。那須学園、そして沢分校の生徒として後輩のよき手本になれるように頑張ってください。



☆園内マラソン大会

二月一〇日

昨年同様に降雪の中、男子は四キロ(小学生は三キロと二キロ)女子は三キロを走りました。天候のこともあり、決していいコンディションとはいえない状況でしたが、全員が無事に走りきることができました。

一二月から約二か月間、何度も諦めそうになりながらも分校や寮の先生方に励まされここまで走り続け、苦手なことや弱い気持ちを乗り越えながら自己ベストを何度も更新してきました。

振り返りでは、「忍耐力がついた」「気持ちが強くなった」「走ることに楽しくなってきた」などの感想がありました。この経験を今後の生活に生かしてもらいたいです。

今後の予定

三月 一三日 卒業を祝う会

三月 一七日 じゃがいも植え

三月 二四日 修了式

三月 二七日 離任式

編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大がやまない中ではありましたが、今年度はできる限りの感染対策を講じた上で従来通りの行事運営を行いました。次年度へ向けて様々な反省点がありますが、子どもたちの楽しそうな笑顔を見ると、工夫をしながら開催できる方法を模索することも必要ではないかと改めて考えさせられた一年でした。関係機関の方々には様々なご支援ご協力をいただきありがとうございます。今後も子ども達へ温かい声援をお願いいたします。

育成課

小鍋・吉永・福田